

..... 編集後記 .....

◆ 超巨大ハリケーン「カトリーナ」が、アメリカ南部の中心都市ニューオーリンズを襲い、大きな被害が起きました。デルタ上にある同市は、地盤沈下により市街地の多くが周囲の水面以下となっており、それを守っていた堤防が破壊されたため、あえなく水没、何時水が引くかわからないといった状況のようです。海岸沿いには多くの都市があり、軟弱地盤や今後予想される温暖化に伴う海面上昇や強烈な気象災害との激しい攻防が展開されるのかも知れません。このような分野でも、地質学がさらなる貢献を求められることになるのでしょうか。

◆ さて、今月の地質ニュースは「南米の火山」・「琵琶湖の砂」そして「特集：地質情報展2005きょうと大地が語る5億年の時間」という内容になりました。

◆ まず須藤(茂)氏が「アルゼンチン中西部の火山」と題して、アンデス山中に群生する多くの火山の概要と火山災害に関する国際研究の進め方について報告されました。本文中のほか、表紙と口絵にも各火山・関連現象の美しい写真を掲載することができました。普通の旅行ではまず目にできない絶景、まさに圧巻です。次に須藤(定)氏が「琵琶湖の砂と砂浜」と題して、琵琶湖湖岸には、白い砂や黒い砂があり、これは後背地の地質と強く関係していることを紹介されました。この調査で採取された砂の画像は、特集記事と口絵でも紹介されています。あわせてご覧下さい。

◆ そして「特集：地質情報展2005きょうと 大地が語る5億年の時間」には12の報告をいただきました。まず、事務局の吉田氏が地質情報展の概要を報告、参加下さった方々の声も紹介されています。今回、地質学会から表彰を受けたとのこと、地道な活動ですが長く続けていきたいものです。

◆ 宮地・酒井氏は「オーソコーツァイトは大陸からの手紙」、亀高氏は「舞鶴帯～古生代島弧の断片～」と題して、数億年前の近畿へ私達を招待してくれています。宮地氏ほかの皆さんは「京都盆地の第四紀地質」の概要を紹介され、松浦氏ほかの皆さんは「地質図の世界-人の暮らしと自然を結ぶ-」、そして今井氏ほかの皆さんは「京都市周辺地域の地球化学図」と題して、今回展示された地質図・地球化学図の新しい魅力・利用法などを紹介されました。須藤(定)氏は「近畿の骨材資源」と題して、近畿地方の社会基盤を支える砂利や砕石などの骨材がどのように供給されているのかを概説されました。

◆ 情報展では人気の体験コーナー。「地学クイズ」(坂野氏)・「レプリカ作成」(中島氏)・「琴引浜の鳴り砂」(兼子氏)・「石割り」(青矢氏)・「砂の観察」(藤橋・須藤氏)の各コーナーの様子が楽しく報告されています。

(須藤定久)

地質ニュース編集委員会

委員長：須藤定久

副委員長：吉田朋弘

委員：高木哲一・丸山 正・高橋裕平・

光畑裕司・七山 太

連絡先：地質調査総合センター

地質ニュース編集委員会事務局

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1

Tel. 029-861-3754

Fax. 029-861-3746

地質ニュース	第614号	2005年	10月号
	定価 ¥785 (本体価格 ¥748) 千実費		
	2005年10月1日 発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel. (03) 3265-0951 Fax. (03) 3265-0952		
	http://www.jitsugyo-koho.co.jp		
	E-mail: jk@jitsugyo-koho.co.jp		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		

© 2005 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ